

●平松礼二館 フランスをはじめ、国際的な活躍をみせる現代日本画家・平松礼二(ひらまつれいじ 1941～)の作品を紹介する展示室。テーマを設けた企画展を開催しています。

NEW YORK - FROM NEW YORK

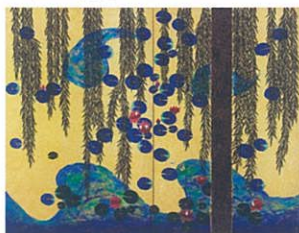
1989年から90年にかけて、平松は2度ニューヨークを訪れています。マンハッタン、セントラルパーク、ダウントウン…街中を歩きスケッチをした数々の風景は、少年時代のあこがれや、現代社会がかかえる矛盾といった、アメリカに対する様々な心情をとりこみながら、直線的な構成をもつ作品となって姿を現します。50歳をむかえようとする画家の目がとらえた、当時の“ニューヨーク・レポート”をご覧ください。



《NEW YORK DOWN TOWN》寄託

●特別展 旅する日本画
- 洋上の美術館・飛鳥Ⅲから -

日本のクルーズ文化を創造し発展をリードしてきたクルーズ船「飛鳥Ⅱ」。その伝統を受け継ぐ新造客船「飛鳥Ⅲ」が2025年に就航します。船内には、日本の芸術文化を支える作家の美術作品、工芸作品が数多く飾られ、「動く洋上の美術館」をコンセプトの1つとして、建造がすすまられています。その展示作家の一人である平松が、「飛鳥Ⅲ」のために制作した新作を先行公開する展覧会で、船内に収まる前に見ることのできる貴重な機会をお見逃しなく。



《モネの池・蝶々》郵船クルーズ收藏

お月見気分

平安時代より月見の慣習がある日本では古くから月を愛でてきました。文学や芸能の分野と同様、美術の世界でも多くの作品で月が描かれています。平松もまた月を好み、作品にもたびたび登場させています。色や形の異なる様々な月はそれ自身で私たちを楽しませ、また、柔らかい光で照らしてくれます。時に麗しく、時に陰りを帯びて描かれた作品を展示します。お月見気分でご覧ください。



《路・月の光》

かざりの文化 - 日本画の装飾美を探る -

和食器や着物の模様など日本の風土に根差した装飾的な意匠。私たちの暮らしに自然に溶け込んでいる「かざり」の文化は、日本美術の特質の一つでもあります。平松は印象派のジャポニスムを研究する中で、日本美術の装飾性をあらためて認識したといえます。以降、平松の画風には、伝統的な紋様や金箔等を取り入れた華麗な表現が多く見られるようになります。本展では平松絵画の中にもみられる日本画の装飾美を探ります。



《花富士海図》

●収蔵品展 近代日本画の牽引者・竹内栖鳳(たけうちせいほう 1864～1942)をはじめとして、後に栖鳳画室に移り住んだ日本洋画界の重鎮・安井曾太郎(やすいそうたろう 1888～1955)、戦中に湯河原に疎開したプロレタリア美術の中心人物・矢部友衛(やべともえ 1892～1981)、後半生を湯河原の隣町・真鶴で過ごした水彩画家の三宅克己(みやけこっき 1874～1954)といった、この地にゆかりのある画家の作品を展示しています。

I期

- ・矢部友衛 《国鉄大井工場のS君》▶
- ・竹内栖鳳《千代田城》ほか



II期

- ・三宅克己 《相州真鶴港全景》▶
- ・竹内栖鳳《喜雀》ほか



III期

- ・安井曾太郎 《赤き橋の見える風景》▶
- ・富田通雄 《パリ・モンマルトル》ほか



寄託

IV期

- ・竹内栖鳳《宇佐幾》▶
- ・平松礼二 《印象・湯河原梅林図》ほか



●第18回現代作家展 湯河原近隣で活動するアーティストを中心に紹介する展覧会。

3月28日(木)～4月22日(月)

北村麻衣子 木版画展
- MAMBO!! -

想像上の生き物を生き生きと表現する木版画家の近年作を紹介いたします。虫や動物たちが音楽を奏で、踊り出す陽気な世界をご堪能ください。



《パッパパーン》

4月25日(木)～5月27日(月)

ありかめ展

院展作家・伊藤彰耳の声掛けによって集まった5人の画家たち。蟻と亀、性質の異なる作家が集い、絵の可能性を探求しています。個性溢れる作品をご覧ください。



伊藤彰耳《花と草と墨》

5月30日(木)～6月24日(月)

東儀悟史展
「Livestock- 作為の民営化」

湯河原で制作を続ける彫刻家による作品展。「Livestock」は家畜を意味する言葉で自身が求める創作のイメージを表したものです。大事に育てられた作品たちを紹介いたします。



《Livestock》

●特別展 高良眞木展(仮題)

湯河原の隣町・真鶴の地で、誰にもみせるでもなく絵を描いていた高良眞木(こうらまき 1930～2011)。社会運動家で童話作家の浜田米術と共に暮らしながら、身近な木や花、土地の風景や働く人々の姿を描きました。迫真性を超えて存在感を放つ彼女の作品は、観る者の心にせまってきます。生涯孤高に絵を描き続けた高良の名は広く知られてはいませんが、美術批評家の瀧口修造、洲之内徹、画家の中川一政らに高く評価されています。日中友好神奈川県婦人連絡会を組織するなど、日中友好へ尽力した側面ももつ高良。自然と人と社会との共生を目指して生きたひとりの画家の、歩みと作品を展覧します。



《ケールの花》(一社)真鶴森の家蔵

●収蔵品小企画展
“しあわせ”さがし

作家はそれぞれの作品に、あるいは制作活動全体を通して想いを込めて制作しています。鑑賞する側がその想いを受け取ることも、全く異なる感覚を得ることもあるでしょう。そのいずれもが作品鑑賞の豊かさです。その点で作品鑑賞には正解がなく、自由だと言えます。同様に“しあわせ”の感覚も人それぞれ異なり、正解はありません。絵画作品の中に“しあわせ”を探し、自身にとってのそれを考えてみませんか。



加藤農明(ひととき)

公開時間
9:30～16:00

平松礼二公開アトリエ

日本画材や制作途中の作品、スケッチなどをご覧ください。



※制作中やイベント開催時には入室いただけない場合があります。

平松礼二資料室

平松礼二に関する新聞や雑誌の記事、美術コレクション等をご覧ください。



湯河原は古くは万葉集にも詠まれた温泉保養地として知られ、明治から昭和にかけて多くの文化人が静養に訪れています。当館は、作家の夏目漱石や近代日本画の巨匠・竹内栖鳳らが逗留した老舗旅館を改修してきた美術館、コレクションはその歴史に由来しています。一方、現代日本画家・平松礼二の作品を多数収蔵し、その作品を展示する「平松礼二館」、公開アトリエや資料室があります。これら収蔵品の展示に加えて、特別展や現代作家展などの展覧会を開催しています。